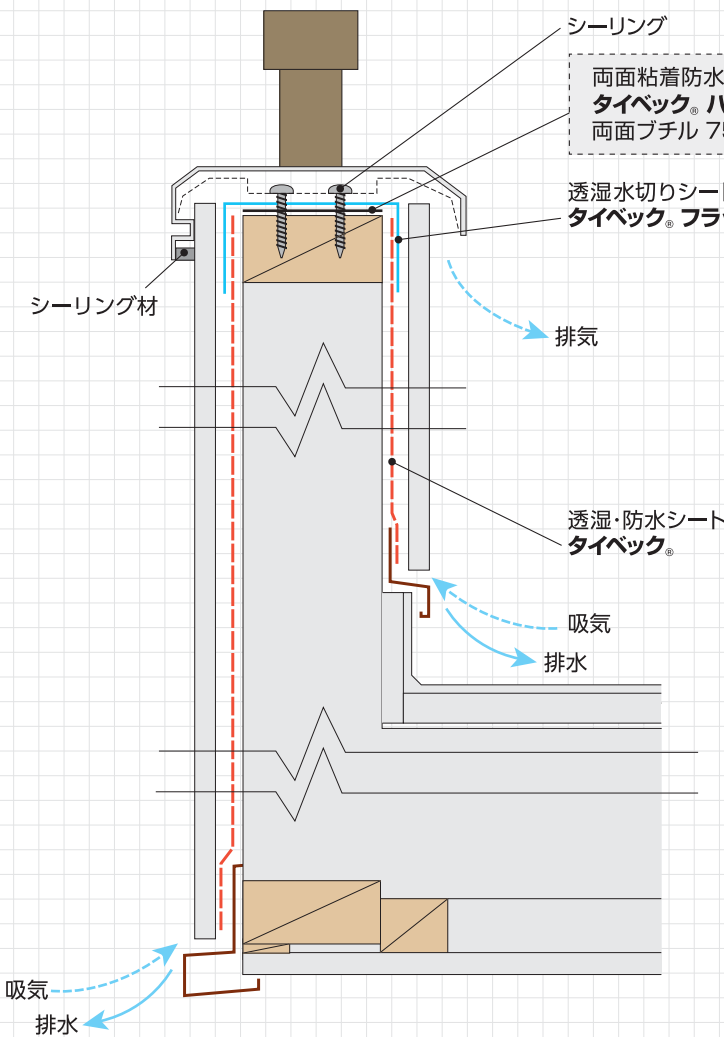




国土技術政策総合研究所(国総研)の研究成果として、木造住宅の劣化対策ガイドラインが公表され、ベランダ手摺笠木天端においての両面粘着防水テープによる釘穴止水の有効性や、手摺壁からの透湿・防水シートは天端でオーバーラップせず、水切りシート(鞍掛シート)を施工するシンプルな納まりの方が雨水浸入を抑制する傾向があるということが分かりました。当社でも実験を行いその傾向が見られましたので、最新の技術情報をお届けします。

※必ずこの通りにしなくてはならないというものではありません。より良いと考えられる施工について参考例として掲載しておりますのでご理解のほど宜しくお願いします。



参考文献：  
 一 国総研資料 No.975  
 一 住宅保証機構株式会社発行  
 「まもりすLetter」2018/2/15

**Point**

手すり壁天端の木下地あるいは、水切りシートの天端に(両面)粘着防水テープを施工してください。木下地天端に施工の方が釘穴止水性が安定する傾向があります。透湿性能を活かすために笠木金具の取り付け部分のみに(両面)粘着防水テープを施工することができれば更に安全です。

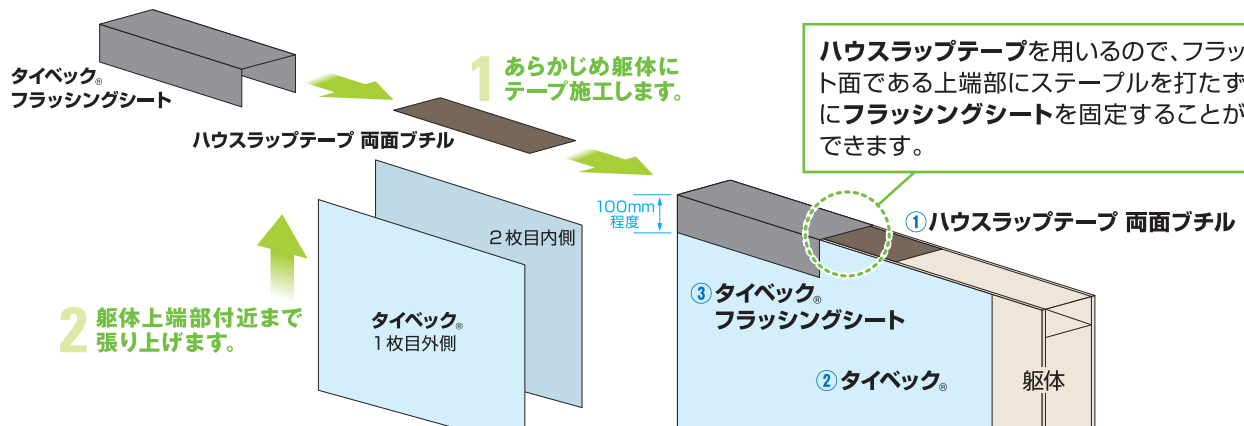
透湿・防水シートは上端部まで張り上げるが、巻き込まないようにしてください。

水切りシートは90mm以上立ち下げてください。(笠木幅によっては、500mm幅製品をお使い下さい)

取り付けの際の下穴及び釘頭部分へのシーリング施工も実施してください。

笠木メーカーの施工要領に従ってください。

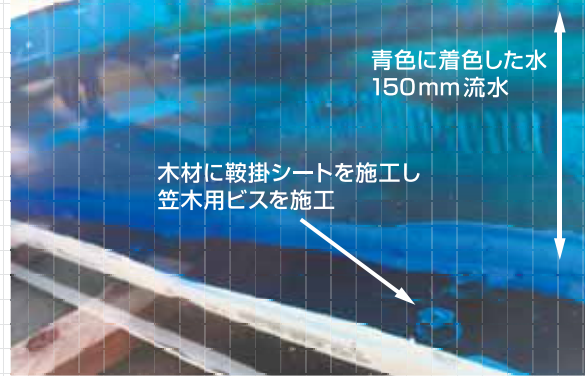
笠木天端の木下地が濡れている場合は、施工後に乾燥させなくてはならず、**釘等が位置する部分**にのみテープ処理する方法をお勧めします。



## バルコニー天端における釘穴止水実験概要

(旭・デュポン フラッシュスパンプロダクツ株式会社にて実施)

バルコニー天端の試験体を用意し、その周囲をアクリル板で囲い、青色をつけた水を150mm流し入れ、5分後にビス穴からの雨水浸入を確認しました。

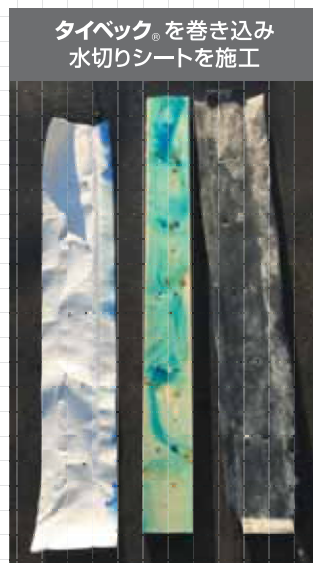


### 試験体と結果

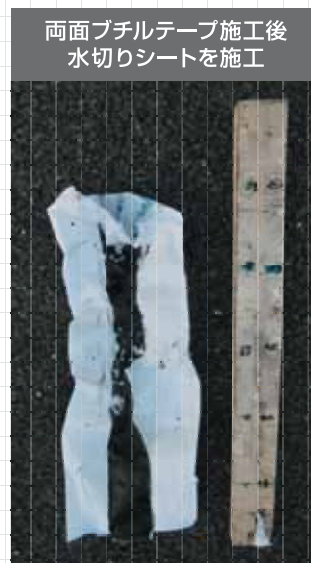
複数の水切りシート（鞍掛シート）で評価実験を実施したところ止水性の高いと思われるゴム系の水切りシートであってもそれ単体での止水性は得られませんでした。

これにより、水切りシートへの釘周りではブチルテープやシーリングなどを併用し、止水処理することが非常に重要であることが分かります。

さらに、釘の種類やその施工にもよりますが、両面ブチルテープを木下地に捨て貼りすることで雨水浸入をさらに防ぐ傾向も見られました。



全漏水



微量な漏水



両面ブチルテープを木下地に施工しない場合、ビスの打ち込みにより、木屑や浮き上がりが発生し、それにより水を引き込んだと考えられます。また、ブチルテープの密着性により水の広がりを抑えていることがわかりました。

### シートの2重、3重の巻き込みについて

シートを多層化させることによって止水性が高まるようにも感じられますが、**タイベック®**のみならずアスファルトシートやゴム系のシートであっても釘穴止水を確保できず、2層目、3層目のシートに水が浸入し、構造躯体側に水がもぐりこんでしまうことが本実験にて分かりました。

※シーリングを施工しておらず、実際の現場よりも厳しい試験を実施しております。本実験では、どのモデルの方がより安全かということを検証しており、現在の仕様の問題があることを示すものではありません。



発行

旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ 株式会社

〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー

TEL.03-5521-2600 FAX.03-5521-2601

E-mail: Tyvek.Japan@dupont.com

URL : http://www.tyvek.co.jp

デュポン™、DuPont、デュポンオーバルマーク、FOR GREATER GOOD™、タイベック®、Tyvek®は、米国デュポン社の商標もしくは登録商標です。 Copyright © 2018 DuPont-Asahi Flash Spun Products Co.,Ltd. All rights reserved.



Tyvek.

FOR GREATER GOOD™